

義務教育の  
その先へ!?



もうないと思っていたコーナー「しん散歩」。まさかの2回目です。先日、高山市のタブレット活用WG（ワーキンググループ）の活動の一つとして、飛騨高山高校にお邪魔して、授業参観をさせていただきました。授業の様子やICTの活用状況、環境などを中心に見させていただきました。

### 【ICT環境や実践の様子】

3年生「地理」の学習では、DIG（防災対策を検討する）授業でした。飛騨高山高校も高山市の小中学校と同じように「MetaMoji Classroom」を活用していました。

高山高校のICT環境としては、一人一台のタブレットPCが備わっており、各教室にはホワイトボードに映し出せるようにプロジェクターも備わっていました。授業者の先生に詳しく話を聞くことができなかったのですが、生徒は慣れた様子で自分の考えを記入、打ち込みをしていました。



どのような避難経路を設定するのがよいか、地形や逃げる人の移動速度を考慮し、自分の考えをノートにまとめていました。詳しい地形や街並みの様子などは、Googleストリートビューを活用し、より安全なコースを吟味していました。全員が一斉に活用するわけではなく、自分たちで考え、必要な情報を取捨選択している様子でした。



タイピングの技術はとても高かったです。一人一台端末が導入される前からタイピング練習を行っているのでとても速く正確に打ち込む姿が印象的でした。ほかの授業でも自分の考えを記入するときはタイピングをしている生徒が多いと思いました。さすがに小学校だけでは無理ですが、義務教育をかけて段階的に取り組んでいくと良いと感じました。

### 【岡田のおもいつ記】

今回は高校のICT活用の実践を見させていただきました。環境面では、小中学校と似たようなものでした。感じたことは、ここ最近話題に上がる「令和の日本型学校教育」や「学びの変容」です。今までは難しかった「個別最適化」や「主体的・対話的で深い学び」がICTを活用することで可能になってきています。逆に言うとお互いの感性や考え方などに触れ、刺激し合うことの重要性について認識し、授業にも意図的に組み込むことが大切だと考えます。さらに、「協働的な学び」もICT活用により、可能になります。毎回の授業ではなくても、児童が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動なども位置付けていくことが大切だと思います。

「ICTを効果的に活用する」ためには、今までの授業スタイル（流し方）も含めて考えなければ難しいと思います。できることが増えたからこそ、授業で目的やねらいに即した活用法の精選が必要だと感じました。ICTはあくまで手段。手段だけだとそれによって今までではできない授業もできるから、新たな可能性を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を模索していきたいと感じました。